



## 体験する成長

# 心あったかニュース

子供たちのやりたいことを実現しながら学ぶ京都の放課後学習塾 studio あおの代表川村哲也さんのインタビュアーやフリーニュース子どもの自由な発想を育む！新しい教育で、未来をつくる京都の学習塾が話題)の第三弾です。今号は、具体的なお話がありましたので、ご紹介します。

川村さんの最初の生徒さんのことです。甲学1年生の疑問が止まらない子で、ずっと5時間喋りっぱなしみたいな日が多かったんですね。それがある日、親御さんに「マ字を覚えなさいと言われたから、タイピングを覚えたい」と話してくれて。お題にそってタイピングで書く練習をしてもらっていくと、好きなことを書いていいの?と。『いよ』と自由作文をしてみたら、彼が関心を持って書いた織田信長について書き始めたんです。それが、織田信長がいたから、TOYOTAができたと思う』という文章で織田信長は、情報と移動を制すれば勝てる』という論者だったので、道の舗装をたくさんしたと。それが道路の基盤となり、乗り物の発想が定着していった

結果が、現在のTOYOTAという企業の起源になっっているのではないかと彼は考えたんです。その発想がすごくおもしろくて、ゆるふわ論文だけど僕にとつて記念すべき初めてのプロジェクトになりました。最近では日本初の小学生主導で行われた、成層圏にバルーンを飛ばし宇宙人に動画を配信する「T.H.E宇宙少年ズ」のプロジェクトについて「このプロジェクトは、宇宙飛行士になりたいという生徒からスタートしました。世の中の子どもたちは、『○○になりたい!』と言うんですけど、なにかになるのは手段であって目的ではないんですよ。その子に宇宙飛行士になつて何がしたいのか聞くと、誰もやったことないことをやりたい』と言ったんです。それなら、宇宙というテーマは外さずに、小学生がやったことないことはたくさんあるからやってみよう。それで一緒に調べていくと、スペースバルーンというのが出てきて、最年少が中学生だったので、覆たちでもできるんじゃないか!』と。そこから費用を計算したり、どうやったらできるか聞いて見ようぜ』つて、本人たちが徳島大学の先生にメールして教えていただきながら実現していきました」絶滅危惧種を救いたい生徒のプロジェクトは「あの子は生き物が好きで、絶滅危惧種をまともな図鑑やグッズを自作することで、売り上げを環境保護団体に寄付してい

ます。今はどじょうへの興味が伸びていて、教室でどじょうの繁殖をしてみたりしていますよ」やりたいことが、実現していくパワーをかんじられますね。実現のその先は終わりじゃなくて、続いていく。学びは、教科書とノートだけでない、外に実態を伴ったものがないなと思えました。T.H.E宇宙少年ズ」のプロジェクトを終えた感想は「子どもたちは今まで初めてだから避けてきたことが多いけど、初めてだからってそんなに怖くないな」と言っていましたね。みんな初めてのことをやりたいたいと言うけれど、やっぱり怖い。宇宙なんて行ったことがないからわからないし、もつと怖い。そういう意味では、やらないう理由っていくらでもあるんだけど、ピピらずやったからこそ成功できたのは子どもたちにとつても僕にとつてもいい学びになりました」体験した成長はとても大きいと思えました。